

かきの木いっぽん みが三つ

宮脇紀雄 絵・村上 豊





かきの木いっぽん みが三つ 宮脇紀雄・作

1979年11月／初版発行

発行所／株式会社金の星社 111

東京都台東区小島1-4-3
電話／東京03-861-1861(代)
振替／東京0-64678

写 植／(有)松竹写植
製 版／(株)ユニプロセス
印 刷／熊谷印刷(株)
製 本／東京美術紙工

© Toshio Miyawaki & Yutaka Murakami

913 宮脇紀雄

かきの木いっぽん
みが三つ

金の星社

72P 22cm

基本カード記載例

8393-052141-1406 ■乱丁落丁本は、ご面倒ですが小社営業部宛ご送付下さい。送料小社負担でお取替いたします。

かきの木いっぽん みが^{みつ}三つ

みやわきとしお
宮脇紀雄・作

むらかみ ゆたか
村上 豊・絵







まいにち あつひい日が つづきます。

がつこうも きのうから、なつやすみに
なりました。

ユカは、にわの かきの木きの下したで、ひとり、
なわとびを しています。

ユカのうちの かきの木きは、ひとかかえもある

大きなおおものです。きんじよにも これほど

大きな木きは ありません。四しほうに えだを

ひろげ、はっぱを いっぱい しげらせて、

日ひかげを つくっています。



しろいブラウス、あかいスカート。

ユカは、まるいかおに あせを いっぱいかいて、
二^にじゅうまわしに ちようせんしています。



「ユーカちゃん……」

うたうような よぶこえです。

「はあーいい……」

ユカも なわとびを やめて、うたうように
へんじをしました。

きんじよの エミちゃんが、あそびに
きたのです。ユカと エミちゃんは、おなじ
一^{いち}ねんせいで、だいの なかよしです。

なつやすみに なってから、あうのは
はじめてですが、ふたりとも がっこうが
やすみで たいくつしているようです。

ユカの　うちは、とうきょうの　きたのはしです。
むかしは　はたけと　のうかだけだつたのが、
ちかごろ　つぎつぎ　あたらしいえが、
たちならんできました。そんななかに、
のこっている　一いっけんの　のうかです。

でも　いまは、おとうさんは　かいしやづとめ。
おじいさんが　ひとりで、はたけに　いろいろな
やさいを　つくっています。





「あついのう。」

あせを ふきふき、おじいさんが、はたけから
もどつてきました。

「おじいちゃん、こんにちは。」

エミちゃんは ペこんと おじぎします。

「おお、こんにちは。」

おじいさんは にわいしに こしを

おろしました。

「ここあ、すずしゆうてええ。かきの木きが

よう しげつとるで。」

おじいさんは かきの木きを みあげていいました。

「どうじゃ、ことしも　みが、うんと　なつとるぞ。
あきには　また、うまいかきが、うんと
くえるじやろ。」

——ギヤーツ！

とつぜん　かきの木きの上うえから
へんなこえが　きこえてきました。

「な、なんなの？」

「いやだあ。」

ユカと　エミちゃんは、

どきつとして

上うえを　みあげました。





「はははは、とりじゃ とりじゃ、オナガよ。」

おじいさんは わらいました。

「オナガは おつぽのながい、きれいな はねの
とりじゃが、こえのわるいが たまに きずよ。
ほら あそこに。」

おじいさんの ゆびさす かきの木きの えだに、
むらさきいろの おのながい とりが、二に、三さんば
きています。

「このへんも だんだん、木きが なくなつてのう。
とりたちも いるとこが ないのさ。」

「うちのかき^きの木、

とまつてて いいわよう。」

ユカが、そういつても、

——ギヤーツ……

また、へんな こえです。

「おかしいの。」

——ギヤーツ……

オナガは、そう なくと

とんでいきました。



